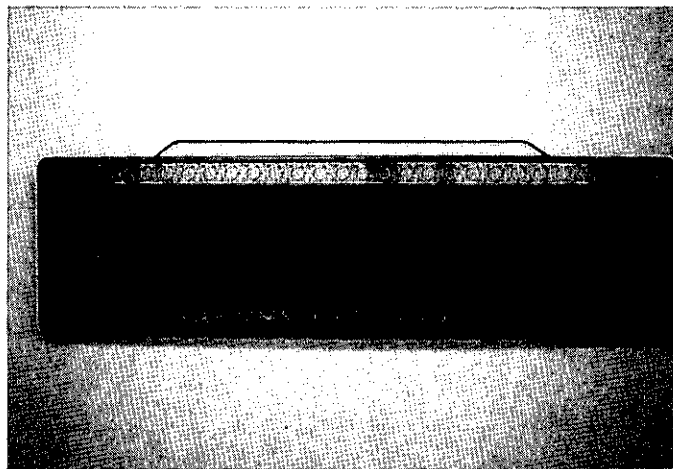


## 第二部 向丘高校の現況



▲第二代校長宇野哲人先生書

# 向丘高校の教育目標と現在

全日制教頭 須永 孝

定時制教頭 金城 和貞

朝、生徒玄関に響く「おはようございます」の声や笑顔が清々しい。今年は特に、生徒の意欲的な学習態度にも触発されて、教師の情熱と使命感が燃え上がっているように感じる。朝の学習についての希望を生徒に聞いたところ、二学年二五〇名の内一〇五名がやってほしいと答えたそうである。朝の登校時に、進路室の前に置いてある国語・数学・英語の問題を生徒自ら求め、火・水・木・金の四日間、早朝の教室で四〇〜五〇名は継続して自主学習している。一学年も、ほぼ同様の方法で朝の学習を実施している。

また本校には、生徒規則で縛らずに、在り方・生き方を考えさせながら真の自由を守らせる、自主自立の校風がある。

このように、本校の校訓「自主・誠実・明朗」、そして教育目標である「自主・自立の精神に富み、常に最善の努力をする、明朗で豊かな心を持つ生徒を育てる」は、本校の現在にも深く根付いていると言えるだろう。

向丘高校の飛躍的發展はこれからである。授業に関しては、もっと積極的な姿勢で多くを記憶させる学習から脱皮して、基礎基本に絞り生徒主体の体験的な学習に容容させ、自ら学び思考する力を育てていく。そして生徒が、未来の人間性豊かな社会を創造し、地域や国際社会等で逞しく活躍できるように、教職員・保護者・地域が連携し、より良い教育環境を再構築する必要があると考えている。

昭和二十四年に、宇野哲人校長先生はじめ諸先生方によって制定された、本校の校訓である「自主」・「誠実」・「明朗」を基礎的理念とし、定時制課程の教育目標は、「勤労の価値を尊びながら生徒としての自覚を高め、広い視野に立つて社会の発展向上に寄与する想像力と、豊かな情操を身につけさせる。」と定められている。

目標達成に向け、基礎・基本を大事に「わかる授業」「興味のもてる授業」を実践し、基礎学力の充実と自発的学習啓発のために、教員は研修を重ねている。また、自己の確立や学校に対する帰属意識を高めるために、ホームルーム活動や各種学校行事、クラブ活動等を通じて全教職員が一体となって取り組んでいる。

また、基本的な生活習慣が確立していない生徒や集団生活の在り方を理解できない生徒に対しては、ホームルーム担任と生徒部が中心になり、保護者との連携をはかりながら生徒指導にあたっている。

在校生は、定職に就いている生徒よりも、アルバイトに従事している生徒の方が多い。社会状況の反映からか何もしていない生徒もいる。継続的・発展的に仕事に取り組める正しい職業感・勤労観を持たせるようホームルーム活動、教科活動を通じて育んでいる。

「昼は仕事、夜は勉強」という定時制の位置づけは近年変化しており、教科の学習以外にも、高校生として当然身につけるべき基本的な生活習慣や社会常識、卒業後も含めた自学自習の習慣、将来の進路や生き方・在り方など、学ぶべきことはたくさんある。

—新校舎建築の概要—

工 費 42億6,236万円  
 期 着工 平成7年9月29日  
 竣工 10年1月16日  
 建築面積 改築校舎 1,750.787m<sup>2</sup>  
 改修校舎 932.120m<sup>2</sup>  
 改修体育館 1,230.339m<sup>2</sup>  
 延面積 改築校舎 10,591.179m<sup>2</sup>  
 改修校舎 3,253.465m<sup>2</sup>  
 改修体育館 2,602.905m<sup>2</sup>  
 構 造 改築校舎 鉄骨鉄筋コンクリート造  
 改修校舎 鉄筋コンクリート造  
 改修体育館 鉄骨造  
 そ の 他 倉庫 (改修)、ゴミ置き場 (新築)、  
 体育倉庫 (新築)  
 各階施設  
 地下 1階 空調機械室・変電室・雨水利用  
 ポンプ室・受水槽室・倉庫  
 A棟 1階 校長室・事務室・小会議室・用  
 務員室・警備員室・保健室・和室・便  
 所 (来賓・生徒用)

B棟  
 2階 地学教室・進路指導室・図書室・職員  
 室 (全)・放送室・便所 (職員・来賓用)  
 3階 普通教室7・生徒会室 (定)・会議室・  
 職員室 (定)・便所 (生徒用)  
 4階 普通教室7・調理室・被服室・便所 (生  
 徒用)  
 5階 普通教室7・物理教室・パソコン教室・  
 便所 (生徒用)  
 6階 多目的教室・生物教室・化学教室・音  
 楽教室・便所 (生徒用)  
 屋上 空調機械室・エレベーター機械室  
 1階 食堂・厨房・部室・便所 (生徒用)  
 2階 LL教室・個別学習室・生徒会室 (全)・  
 便所 (生徒用)  
 3階 社会科教室・講義室・相談室・美術室・  
 便所 (生徒用)  
 4階 視聴覚室・集会室・便所 (生徒用)  
 体育館 内・外部部 (床・塗装) 改修  
 付帯設備 エレベーター A棟 3基  
 B棟 1基  
 雨水利用 (便所専用)  
 全館冷暖房

平	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平	平
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	9
7	8	8	9	9	4	4	10	7	2	2	7
1	6	8	2	9	4	4	10	7	2	2	7
16		8	8	14	14	11	20	19	13		13

埋蔵文化財発掘調査着手  
 新校舎改築工事着手  
 埋蔵文化財発掘調査終了  
 3号館改修工事 (夏期休業中のみ実施)  
 3号館改修工事終了  
 体育館改修工事 (夏期休業中のみ実施)  
 体育館改修工事 (夏期休業中のみ実施)  
 新校舎改築工事竣工  
 外構 (グラウンド等) 整備工事  
 着工予定

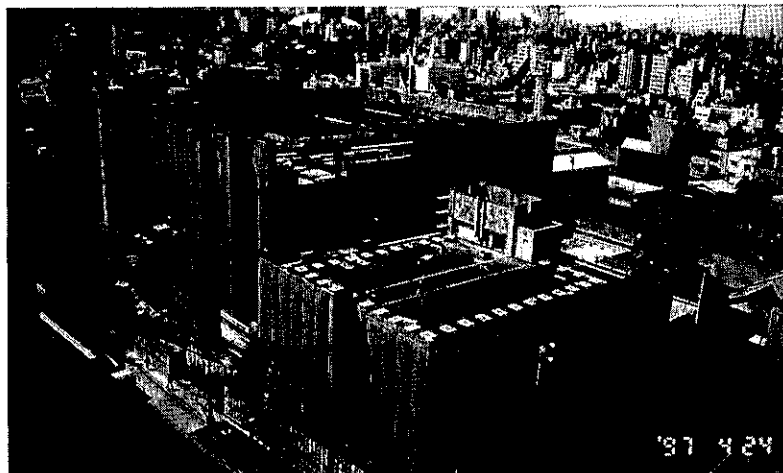
新校舎工事進捗日誌抄

新校舎の建設と充実

ついに校舎改築の一期工事が完了し、グラウンド改修に関わる二期工事を残すのみとなった。途中、遺跡発掘調査のために若干の工期の遅れをみたものの、待ちに待った新校舎の完成を教職員、生徒一同大いに喜び合った。概要や工事の進捗については上記の図表に詳しいので多言は避けるが、工事関係者のご尽力、近隣のご理解に深く感謝したい。内部的には、改築準備委員会、改築委員会に委員として参加していただいた全定の教職員の方々、特に、稲垣、鳥居、古田の三代の改築委員長の先生方のご苦勞を考えると頭が下がる思いである。次頁に、鳥居先生に代表して一文を草していただいた。

入学者選抜試験で慌ただしい二月に引越しをし、無事に新入生を迎えることもでき、新生向丘高校の歴史の扉が開かれた。六階建ての堂々たる校舎である。本郷通りから眺めると、薄青い光を纏っているようにも見える。学校見学を希望される中学校PTAの団体も増えている。内実のますますの充実を目指したいと思う。

(国語科 重村)



## 校舎改築に関わって

鳥居 雄司

新校舎の設計時期と仮設校舎に引越しをするときに改築委員長でした。設計の時に、たくさん要望がありました。それらを改築委員会で整理し、三点に絞られました。「敷地の有効利用」「多目的ホール」「ゆとり」です。

向丘高校は交通の便がとても良い学校です。三田線、千代田線に加えて南北線でも通えます。ところが便利さと引き替えに校地が狭いです。校地を広くすることは簡単にはできません。そこで新校舎では高層化をはかってグラウンドを出来るだけ広くということを目指しました。旧校舎は一、二、三号館の三棟に分かれていましたが、新校舎では二棟にすることができました。

つぎは多目的ホールです。向丘は文化的行事が盛んな学校です。合唱祭、向陵祭のギター部、ジャズ研、自主参加グループの演奏、部やクラスの演劇があります。是非、文化的な行事に使える場所が欲しいという声が強かったのです。当時は経済状態が悪く、東京都予算を前年度より縮小して組んだところです。体育館以外にホールを作るのは難しかったのですが、新校舎の目玉と言

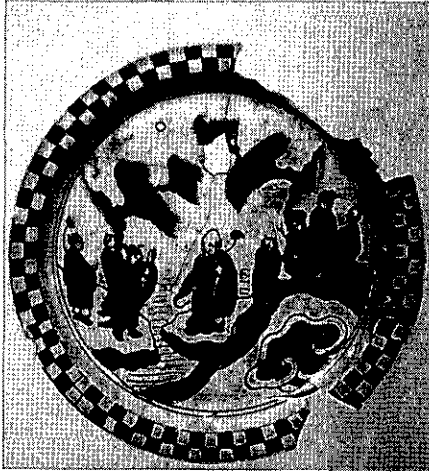
うことで委員会が頑張りました。

三つ目はゆとりです。校舎を歩くと、ホッとするスペースが多いのに気がつくと思います。また、旧校舎にはほとんど無かった応接室や生徒面談室を、これでもかとはかりに作っています。ゆとりは見方を変えれば無駄なので、これも随分やり玉にあげられました。しかし、ゆとりのある設計をゆずりませんでした。実は設計者の生まれ育ったのが文京区向丘だったので。「子供の頃の遊び場だった学校のためだから」という話を聞きました。あちこちに設計者の思いが詰まっています。

忘れられないのは住民説明会です。わずかに一時間足らずで終わりました。本庁からきた方が、あまりに短時間だったのと、一言の苦情もないことに驚いていました。改築につきものの周辺住民からの苦情が無かったからです。むしろ新校舎に期待する言葉をもたらった程でした。

向丘は地域からしっかりと支えられています。素晴らしい生徒と地域に支えられていることが向丘の財産だと考えています。

(本所工業高校定時制教頭)



▲遺跡発掘風景

◀出土品「青花月下仙人説法文皿」

## 埋蔵文化財発掘調査のこと

私たちの身边には多くの歴史があるが、関心をもたれないために忘れられている。文字で残されているものが少ないために歴史を調べる大きな手がかりとして埋蔵文化財は、私たちの財産であるばかりではなく、後世の人人に引き渡すべき財産として考えられているところが、私たちの生活のためのさまざまな工事によってやむをえず破壊されることがある。そうした場合、埋蔵文化財の破壊を未然に防ぎ、保護・活用・記録するために、遺跡があるかどうか、確認する調査が行われる。

以上の文化財保護法の精神に従って、本校も改築に先立って一九九四年一月、旧一号館脇の校庭の四×八メートルが調査された。その結果、縄文時代の土器と石器、江戸時代の陶器片が多数出土する包含層が確認されたので本調査を行うことになった。

発掘調査は一九九五年三月下旬から行われ、九月三十日に終了した。その調査報告書の「駒込鰻縄手 御先祖組屋敷―都立向丘高等学校地点における埋蔵文化財発掘調査報告書―」（都立学校遺跡調査団・編集）は発掘調査報告だけでなく具体的に詳細な古文書研究もあるすばらしい報告書で、今後の調査・研究のあり方を提起するものとなっている。

中山道と旧日光御成道の間にある本校付近は、江戸時代以来麟祥院（春日局の菩提寺）領百姓地から將軍の警護などの役割をもつ御先祖組同心・御持組同心の長屋となり、一九一三年には駒本尋常小学校も建てられた（その土台等が発掘された）。このため江戸時代以前の生活の跡を示す遺構は破壊されて、縄文時代の前期（約六千年前～五千年前）と後期（四千年前から三千年前）を中心とする土器と石器が発掘されただけである。

江戸時代の遺構は、御先祖組同心などが普段使わないものや火事の時に家財道具などを入れて逃げた地下室のような地下式土坑が三十基、井戸が十三基、瓦の土などのために粘土を掘って売ったと思われる採土坑などさまざまな遺構が二四六基発掘された。地下式土坑には、扉の写真にあるような多量の輸入陶磁器が出土したものもあり、注目される。

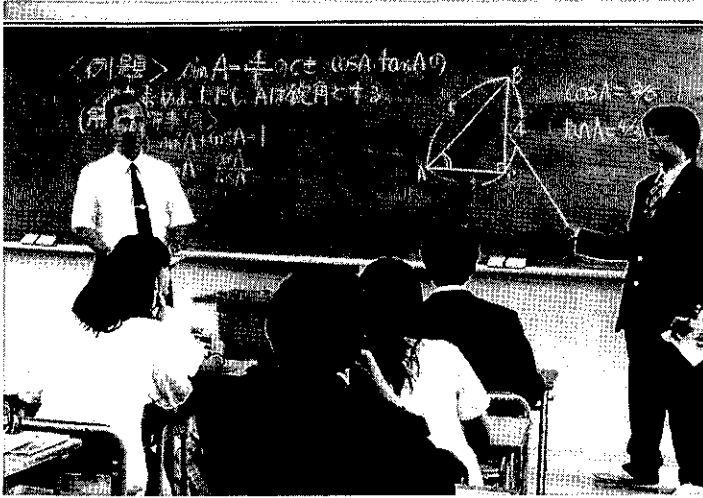
ところで私は、授業の一貫として生徒に自分の学校の発掘の様子を見学させたいと希望したが、八月三十一日になって拒否された。このことは大変遺憾なことと思っている。

（社会科 田嶋）

# 学校生活の現在

## ◇ 学習状況 ◇

◀ 授業風景 (習熟度別授業・数学)



### 選択科目の工夫

#### 国語科

数年前、第二・第四土曜日が休業となったのに合わせ、御他聞に漏れず国語科でも「国語Ⅰ」及び「国語Ⅱ」において、従来の五単位から四単位へと減単が行われました。しかしながらこの間、国語に関わるニーズは減少するどころか、ますます増大・多様化の一途をたどっているように思われます。これは、内には本校の特色でありますところの、生徒諸君の進路選択の幅広さを、外には大学入試方法の多様化等を、理由として求められましょう。ともあれ、こうした多様なニーズに対し、限られた授業の枠の中でいかに応えていくかが、重要な問題であります。

端的な対策としては、選択科目の設置に尽きるでしょう。二・三学年において実施しておりますが、可能な限り様々な需要に応えるべく、設置には工夫を凝らしております。三学年の例を挙げますと、古典のみならず現代

文分野においても大学受験をにらみ、一般入試対策としての問題演習を中軸とする「国語演習」や、近年、大学(短期大学含む)の推薦入試等において重要性を増す一方の小論文試験対策を主眼とした「国語表現Ⅱ」といった科目を設置しています。一方で、「国語表現Ⅰ」という科目では、社会人としての一般常識・一般教養を国語科に関わる範囲で取り上げる事を目的とし、漢字・熟語から始まって敬語の使い方や手紙の書き方までを、幅広く扱っています。いずれも、必修科目に比べ小人数を対象に授業を行える利点をおおいに活用した内容と自負しております。生徒総数が減少した反面、その要望の拡散化が進む現状では、こうした科目の重要性は増し続けるようにも思われます。

選択科目のうち幾つかを御紹介しましたが、これらをはじめとした授業に、補習や個人指導をも加え、可能な限りきめの細かい指導を、今後とも継続・発展させていこうと考えております。(安野)

## 新教育課程への対応

### 社会科

本校では現在カリキュラムの移行期に入っており、社会科もそれへの対応が求められている。平成九年度入学生、現在の二年生から新課程で学習している。本校新課程の特徴は、大幅な選択制の導入である。二年次で芸術を含め六単位の必修選択、三年次では四単位の必修選択と、更に自由選択がおかれている。生徒の多様なニーズに応えようという目的で作られた新課程であり、社会科もそれに沿った形で科目を設置した。必修科目は一年次に倫理と地理、二年次に世界史、三年次には政治経済を実施し、日本史は三年次の必修選択に置いた。二年次の必修選択には現代社会と地理Bを置き、工夫を凝らした授業を行っている。現代社会では時事問題の中から生徒自身に課題を決めさせ、調査、資料収集の後に発表を行わせている。また、地理Bでは一年次の地理Aを発展させ、インターネットを利用し、正に国際社会の生の状況に触れさせている。三年次の選択に関しても、入試対応の講座から現代社会の問題を考察する科目まで幅広い視野で科目を設置している。現在の生徒は興味、関心も多様で、所謂「暗記科目」としての社会では、彼らの興味を引き出すことは難しい。現代の諸問題が如何に自分達の生活と結びついているかを実感させながら、

社会的事象に興味、関心を持たせることが、社会科に求められる授業であり、課題と考える。(北原)

### 習熟度別授業について

### 数学科

一年生の数学I(五単位)、及び二年生の数学II(三単位)において、二クラス三展開の習熟度別授業が行われています。クラス分けについては、定期考査の成績や希望を軸に一人一人の学習効果を考慮しながら綿密に行っています。

各講座は、A(基礎コース)、B(標準コース)、C(発展コース)で定員は単純に三分するわけではありません。高校での数学にやや不安のある生徒に対しては手厚く面倒がみれるように、そしてある程度基本的な理解ができている生徒に対しては、さらに応用・発展力を付けさせようとの工夫を凝らしています。傾向としては、Aコースの人数を少なめにし、Cコースをやや多めにしています。

出席簿や座席表の管理、定期考査の問題作成等、教員側の仕事としては以前よりも煩雑になりますが、それ以上に個々の生徒に行き渡るメリットの方にウェイトをおいています。過年度比較などから、単位未修得者の人数も明らかに減り、生徒も随分、基礎学力をつけてきたことが伺われます。また、上級学年に進む時に選択授業で積極的に数学を選

ぶ者も増えていきます。生徒側に習熟度授業に関するアンケートを行ったところ、「効果がある」という内容が多くなりました。

尚、習熟度授業を始めてから数年が経ちましたが、その時々々の生徒の学習状況、校内の体制を考えながら、少しでも教育効果が上がる方法を模索し続けてきた経緯があります。

(水原)

### 理科離れに抗して

### 理科

中堅の都立高校である向丘の理科教育は、実に広い視野を要求されている。中学までに培ってきた科学的素養のレベルは生徒により様々であること、また、希望する進路も多岐に渡っていることから、講義を中心とした伝統的な授業では対応できない。そこで、各科目それぞれに個性的な展開を試みることで生徒の興味・関心を呼び起こしながら効果を上げている。

まず物理科では、コンピュータを導入した教育として学校全体の個性化に寄与している。そして、コンピュータを利用した個別学習コースを多数用意し、一人一人の生徒がその理解度に応じて学習を進めている。

化学科は、実験・実習を中心に基本的な理論や事柄について無理なく修得できるように工夫している。身近にある物質の性質をとりあげ、そこから最先端へ目が向くような展開

を試みている。

生物科は、水槽の一つ一つに広がる生態系を生徒自身の目で観察させることなどから生命現象との対話を心がけている。ゾウリムシに名前がついてしまうほどである。

地学科では、宇宙から微化石まで生のデータや実物資料を用いた実習を試みている。望遠鏡、岩石カッター、パソコン等々が自然を観るための道具として活用されている。

各科および実習の専任五人と嘱託二人というスタッフ一同は、向丘で科学のセンスを身につけた生徒諸君が将来、理科離れの風潮に抗して社会に貢献することを期待してこのような取り組みを続けているのである。

(南島)

## グラウンドよ再び

保健体育科

93年度の三学期から校舎改築が始まり、その影響で本校からグラウンドが消えました。

体育科にとりましてグラウンドが使用できないということは、授業を展開する上で大きな負担となりました。対応策として94年度は小石川グラウンドを使用して授業を実施するようになりましたが、時間割の関係で全クラスが参加できずに二年生男子四クラスのみを使用となりました。しかし、これも天候等の事情で十分な活用ができずにこの年限りでした。

このような状況の中で限られた施設の有効

利用を検討した結果、現在は三年生に二クラス三展開の選択制授業を導入し、一、二年生においては同種目を二期に分けて実施したりしています。また、男子は96年度より柔道だけでなく剣道も取り入れて、一年生が三単位を柔道・剣道・球技とし、二年生で一単位を剣道か柔道の一つを選択する形式にしました。これにより剣道場・柔道場が有効に利用でき、体育館・球技コートもゆとりを持って使用できるようになりました。

改築工事の関係でグラウンドを知らずに卒業していった生徒には大変申し訳なく思いますが、今年度の三学期には待望のグラウンドが完成して授業環境も整います。再びグラウンドに若さと活気に満ちた生徒の活動が見られることを楽しみにしています。

(佐藤)

▼授業風景 (体育)



## 有効なプログラム

英語科

98年度の外国語(英語)科は常勤の教員が八名、他に非常勤の外国人指導員が一名で、週一四時間の授業を担当しています。他にフランス語と中国語の授業を週に四時間ずつ実施しています。非常勤日本人講師の担当です。次が学年別のカリキュラムです。

### 〔必修科目〕

一年 英語Ⅰ(四単位)

オラルコミュニケーション(二単位)

二年 英語Ⅱ(五単位)

三年 英語リーディング(三単位)

### 〔選択科目〕

二年 英語ライティング(二単位) 二講座

仏語(二単位)、中国語(二単位)

三年 英語Ⅱ(二単位) 四講座

オラルコミュニケーション(二単位)

仏語(二単位)、中国語(二単位)

一年の「英語Ⅰ」は二クラスを三講座に編成して習熟度別で授業を実施しています。また、一年の「オラルA」のうち一単位と、三年の「オラルB」の二単位は外国人による英会話の授業を行っています。

カリキュラムは新課程へ移行中で、来年度で完了すると、一年では必修、学年進行で選択科目の比重が増す進学希望者向けのスタイルになります。新校舎落成と同時にしし教室



の設備もマルチ・メディア対応のものに生まれ変わりました。しかし、生徒の脳細胞の配列を英語モードに切り変える有効なプログラムは、いまだ開発途上にあります。(新井)

### それぞれの特色

#### 芸術科

本校では、全生徒が芸術科の「美術」「書道」「音楽」から一科目を選択し、「芸術Ⅰ」「芸術Ⅱ」を二単位ずつ履修します。三年次の自由選択科目として「芸術Ⅲ」が各科目で二単位ずつ置かれています。

書道では、一般的な毛筆での臨書のほかに、書に関連する「もの作り」を取り入れているのが特色です。今までに「書道Ⅱ」では篆刻印や木製の表札作成を行ってきました。「書道Ⅰ」では各自の好きな言葉を毛筆で書き、好きな色を選んで飾り皿に焼き付ける活動が好評でした。希望の生徒には毛筆・硬筆の書写検定を校内受検させ、さらに意欲を引き出しています。

美術では、立体制作、平面制作を偏りなく取り入れ、生徒の可能性を多面的に引き出すことをめざしています。また、生徒が生涯にわたって美術を愛好できるように、鑑賞の方法も指導しています。三年次の授業は、生徒が自分で制作予定を決める個別指導方式をとり、美術系に進学する生徒にも対応したきめ細かい指導を行っています。

音楽では、歌唱・器楽の表現領域に重点をおき、基本を身につけ、より豊かな表現ができるように指導を進めています。クラスコンサートは、生徒が自ら選曲して演奏する「個性を生かす場としての授業」をめざしています。三年次には、生徒が卒業後も音楽と親しめるよう、近年普及のめざましいパソコンを利用して音楽制作の実習を行っています。(宮和田)

### 生きる力の育成

#### 家庭科

家庭科が「男女共通必修教科目」となり、五年目を迎えました。それまでの「女子だけの教科」「単なる料理・裁縫の技能教科」のイメージから大きく変化しました。

ご存知のように、社会の変化は予想以上に激しく、教育を取り巻く環境には厳しいものがあります。少子化・高齢化の進展と共に男女を問わず、人間として心豊かにたくましく生きる力の育成が、改めて今強く求められています。

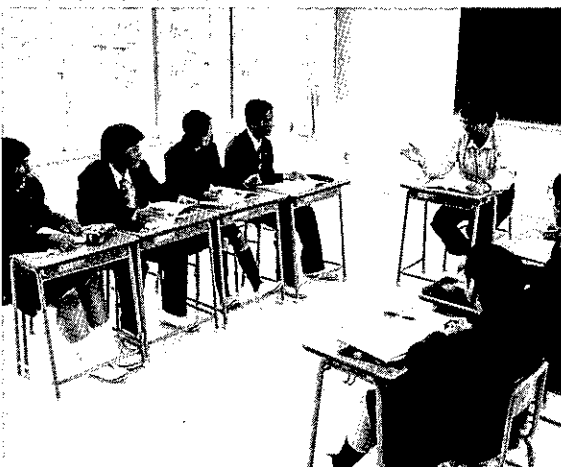
本校では、「家庭一般を一、二年で二単位合計四単位履修しています。

毎年、生徒の様子を見ながら授業を組み立てていますが、最近の高校生は、生活体験が乏しいため、なるべくどの領域でも、実験・実習・調査・グループ研究等を積極的に取り入れています。また、本格的な高齢化社会を

迎えた現在、高齢化社会へのかかわり方や生き方などについて考えるため、三年の選択科目に、「家庭看護・福祉」を設置し、福祉施設・保育園見学や手話・車椅子の体験もできるような教材を工夫しています。

「男だって料理くらいできなくては」という発想ではなく、共に生きていく人間として、生徒一人一人が家庭科の学習を通して青年期の過ごし方を振り返り、生活の自立を図ることは、人生八十年時代を生き生きと生きる力になり、生涯学習の基礎を培う教材としての役割も大きいと言えます。(小川)

▼授業風景 (英語)



# ◇ 進路状況 ◇

## 進路指導の概要

本校では、年度当初に進路部及び三学年担任団とが連携し、毎月ごとの綿密な内容を明記した「進路関係行事予定表」を作成します。その際、進路関係（大学・短大・専門学校）と就職関係（民間・公務員）を柱に時期や進路希望に応じた指導を計画します。

進路の場合には、進学説明会、推薦入試・一般入試対策、センター試験対策、具体的な勉強の仕方、模試の効果的利用法、小論文対策、学校見学時のポイント等々に比重を置いていきます。

就職の場合には、職種・業種、心構え、適性検査、求人票の見方、履歴書の書き方、面接対策、卒業生との懇談会、ビデオ活用による意識の高揚、日常の言葉使い等々、保護者の承諾や意向をふまえながら段階的に進めていきます。

特徴としては、例えば有名大学への進学率上昇を至上のものとするなど、特定の進路指導に偏ることなく、一人一人の希望を実現させるよう配慮・工夫をしています。当然、担任との面接（二者又は三者）が軸になってきますが、もう一つ、学年全体や進路部という体制の中でも位置付けていきます。適切なアドバイスは、個々の生徒の特徴をまずよく理解

することから始まるというスタンスです。一方的な反対や押しつけ、放任は禁物です。以上、雑駁ではありますが本校進路指導の概要を書かせて頂きました。（進路部 水原）

## 今春の進路状況

第五十回生（二五八名）の進路内訳は四年生大学一九名・短期大学三六名・専門学校五九名・民間就職二五名・フリーター・アルバイト一二名・留学三名・浪人十未定一〇四名です。次に一九八九年から本年（一九九八年）までの一〇年間の進路動向について概略を述べます。

四年生大学合格者については一九九〇年三月までは毎年延べ人数で一〇〇〜一二〇名前後でしたが（浪人を含む）、残念ながら一九九一年から現在に至るまで五〇〜九〇名に減少しています。（ただし、一九九七年三月卒業生より一学年七クラスです。）

短期大学合格者に関しては一九八九年より現在に至るまで毎年五〇名前後（ほとんど現役生）ですが、近年の大きな特徴は一部有名短大・看護医療系短大を除いて本校の短大志望者がほぼ全員合格していると言うことです。

就職者は毎年二〇名前後、専門学校進学者

は年によってばらつきがあり六〇〜一二〇名の範囲で変動しています。

進路部としては、生徒の多様な進路希望の実現に全力を傾けるとともに、減少しつつある四年生大学進学者のバックアップをどのようにするかがこれからの大きな課題であると考えています。（進路指導部 伊藤）

※詳しくは資料編参照

## 卒業生の声

宮村 香織

三年当初の志望は四年制大学だったが、センターテストの結果や家族の意向もあり、最終的に短大の英文科に入ることになった。「どうでもいい」という気持ちになりかけたが、担任の先生の励ましや進路の先生の助言で、気持ちを切り替えることができた。焦る気持ちをおさえる為だったのかも知れないが、学校帰りは毎日図書館に通い、参考書を開くことが習慣になっていた。合格通知を受け取った時は、本当に安堵した。自分で決めた道なので、語学を学ぶことを楽しみたい。英検合格が単位に認定されるので、そのためのコースも取った。今の良い目標になっている。毎日、辞書とにらめっこしながら、少しずつ習得する努力を続けることは、きっと自分を鍛えてくれると思う。将来は、中国語にも挑戦し、充実した大学生活にしたい。

（駒沢女子短期大学英文科 平九九年卒）



▲生徒会誌

### 生徒会の主な取り組み

- \* 93年 350mlの空缶約4000個を収集して「アルミ缶の虹の壁画」を制作し、向陵祭に展示する。
- \* 94年 自転車置場の設置を求めて、約400名分の署名を集め、学校側に提出する。
- \* 94年 「旧校舎の保存ビデオ」を制作し、向陵祭で上映する。
- \* 95年 会則および役員選挙規定の大幅な改定を行う。役員引き継ぎ等がより円滑となる。
- \* 96年 この年より校内清掃および向陵祭のマスコットの制作に取り組み、以後継続する。
- \* 97年 諫早湾の環境保全を求めて、382名分の署名を集め、長崎市に送る。
- \* 97年 「4学区高校生をつどい」に参加する。本校からは約60名が参加し、熱心な討議をする。

## ◇ 生徒会活動 ◇

本校の生徒会は、一年間活動するにあたって、公約を決め、その公約にそって活動してきている。活動の基本は、学校生活の改善を目指した細かな活動であるが、行事の運営の仕事も大部分を占めている。

この数年は、校舎改築のために、プレハブ校舎での不便な生活、運動場なしのクラブ活動、体育館が一夏使えないなど、私達の生活は大変制約があった。それでも、みんながそれまでと変わらない生活を送れるように、先生方と協力して、自転車置場の設置、クラブ活動場所確保などの問題にかかわってきた。

昨年からは、プレハブ校舎でも入学してきたくれた新入生を暖かく迎えるために、学校説明会、入学式の準備の手伝い、新入生歓迎会、対面式の運営など積極的にとりこんでいる。生徒会役員や美化委員会が先頭に立って、一般生徒のボランティアを募って、校内清掃を行うこともしばしばある。

一番の仕事と言えば、向陵祭の運営である。六月ぐらいから、スローガンの決定や、マスコット製作、クラス・有志の企画の検討などをやり、夏休みも休みがないぐらいの活動をしている。特に昨年は、プレハブ校舎最後の年ということで、「行事の活発化」を公約にあげ、新企画にとりくんだ。内容が緑日など祭

り一色から少し変化のあるものになり、結果として予想以上の人が入り、楽しい向陵祭になった。

またこの一、二年他校との交流も多く、「四学区高校生をつどい」に参加している。生徒会役員を中心に、向陵祭で評判の良かった企画を持って数十名が参加した。また、生徒会活動の悩みや都立高校統廃合のことなども話しあっている。各校の代表が行う「学校自慢」というイベントでは、向丘について発表した。他校の感じがつかめて、とてもよい経験を積んだと思う。

その他、生物部から話のあった諫早湾の干潟をつぶすなどという署名にとりくんだり、重度障害者の施設建設のためのプリペイドカード集めなども行っている。

一年を通して行っているのは、生徒会誌『TEA TIME』の年間二十回以上の発行や、生徒会誌『おおとり』編集の手伝いなどだ。その他に会計については、生徒会費を決めたり、向陵祭やクラブの予算の割り振りなどを行っている。

生徒から何か要望があれば、その事について先生達と話しあったりして、生徒にとって身近な存在になれるように努力している今日この頃である。

(前生徒会長 熊上)

演劇部 1996年文化祭公演▶  
『レンタルファミリー』



▼パン屋さん



◇ 部 活 動 ◇

部・クラブ活動の概況

現在、本校には、運動部一九、文化部二二の計三一部が登録されており、他に同好会が一つ、教員主宰クラブ八つがある。今年度、部員数が0になった部もあるが、それぞれ堅実に活動し、成果を上げている。

もともとグラウンドが狭い上に、ここ数年、校舎改築によって、球技系の部は不自由を強いられている。しかし、狭いスペースを譲り合ったり、工夫したりして有効に使い、練習に励んでいる。ラグビー、サッカー、野球部は、抽選によって東京都の小石川運動場を月五〜六回の割合で使用している。朝練習をしたり、荒川河川敷まで練習に出掛ける部もあり、その様子は涙ぐましいものがある。制限が加えられた状況だが、女子バスケット部やサッカー部や剣道部などが優秀な成績を納めている。

新校舎になり、文化部にとっては好条件が整った。「多目的ホール」などは、文字通り、さまざまに利用でき、活動場所の拠点となるはずである。演劇部や吹奏楽部など、ますますの活躍が期待される。

次ページ以下に、部活動の一覧表と生徒自身による紹介文を掲載する。  
(重村)

種播きし人

— 追悼 矢萩文雄先生

放課後のグラウンドにはいつも先生の姿があった。五十代後半とは思えぬ俊敏さと強靱さ。向丘高校に赴任し、グラウンドの隅でラグビー部の練習を見ていた私に、「ラグビーはお好きですか。」と声を掛けて下さったのが定時制体育科矢萩文雄先生との出会いであった。

厳しく、また優しい先生だった。マネーが悪く、ラフプレーの多いチームに敗けると烈火の如く怒られた。母校中央大学の古いボールを山ほど譲り受けて下さったこともあった。私は、矢萩先生の下で、ラグビーのみならず人間としての修業をさせていただいたと思っている。

その先生も急性白血病で平成二年の冬にこの世を去られた。先生の播いて下さった種に、十一年間、細々と水を遣り、草取りもしてきたが、どうも大輪の花を咲かすことはできそうもない。創部以来、献身的に尽力された先生の姿を思い浮かべると、慚愧に堪えない。  
(重村)



▲牛乳屋さん

◀ラグビー部

部活動一覧表 (1998年度)

班名	顧問	部員数	班名	顧問	部員数	班名	顧問	部員数
サッカー	宮坂・清水・永倉・ 豆月	35	バドミントン	佐藤博・河村・ 棚橋	37	新聞	新井・藤崎	0
ラグビー	重村・佐藤信・ 川原・新井	25	柔道	佐藤善・宮和田	8	イラスト研究	田中・佐藤雅・ 西原	13
ハンドボール	藤崎・高橋	9	合気道	菊地・山本	6	放送	伊藤・河村	10
軟式野球	安野・木村・芝崎	29	体操	佐藤善・佐々木	0	ギター	三田村	0
硬式テニス	北原・若生・岡田	23	剣道	竹原・阿形	11	吹奏楽	宮和田・菊地・ 水原	11
ソフトテニス	伊藤・佐々木	13	空手道	田嶋・小川	15	華道	小川・相馬	0
陸上競技	川原・矢野	7	水泳	小川・佐藤雅	4	茶道	宮坂・棚橋	13
男子バレー	橋本・大和田・三 橋本	26	山岳	菊地・佐藤博・ 矢野	0	写真	佐藤博・田嶋	8
女子バレー	堀尾・橋本・相馬	12	卓球同好会	諫山・水原	6	経音楽	諫山・北原	43
男子バレー	田中・吉見	15	演劇	岡田・佐藤信・ 川原	15	物理	清水・南島	53
女子バレー	南島・堀川・吉見	17				生物	高橋・木村	13

各部紹介

教員主宰クラブ

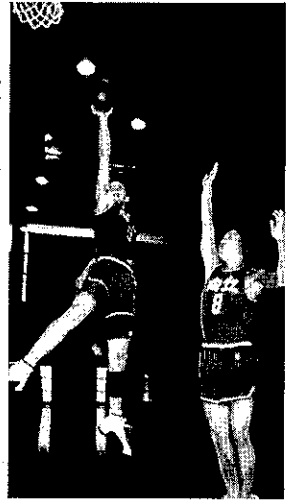
班名	顧問	部員数	班名	顧問	部員数
読書クラブ	阿形	15	文学・歴史散歩	田嶋	0
ガーデニングクラブ	山本・木村	2	映画研究	永倉	5
囲碁・将棋部	佐々木	3	MIDIクラブ	水原	18
古典を読む	重村	11	地球・環境研究会	南島	5

ラグビー部

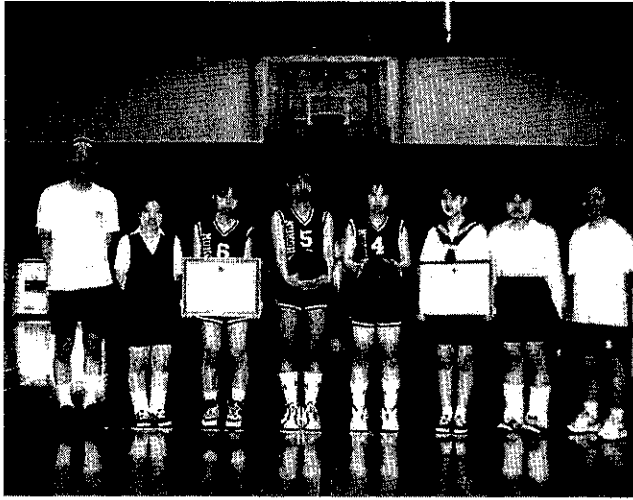
向丘高校ラグビー部が創部されたのは、昭和五十一年です。体育科の会津一先生、佐藤正和先生、また、定時制体育科の矢萩文雄先生によって礎が築かれ、これまでに日本体育大学、中央大学、国士館大学などのラグビー有名校に先輩方が進学され、主将や副主将として活躍されてきました。都大会でベスト8という輝かしい実績も残しています。

現在は部員数も少なくなり、東京都全体でもラグビー部が激減している状況ですが、重村弘之先生のご指導のもとに毎日練習に励んでいます。夏季合宿では毎年多数のOBがご参加下さり、自らもジャージを着て、菅平を走られる姿に教えられるものが数多くあります。

校舎は新しくなりましたが、われわれラグビー部員にとって条件は何ら変わりません。狭いながらも心待ちにしていたグラウンドもオールウェザーになることが決定しました。ジプシーのように、月数回の小石川運動場を練習に有効に使い、他の高校に練習試合に出かけていくしかありません。しかし、ジプシー軍団にも誇りと意地があります。つらい練習の中で身をもって学んだ精神力と信頼はわれわれの将来に必ず大きな力となるはずですよ。重村先生がいつもおっしゃる「みんなは一人のために、一人はみんなのために」という



▶男子バスケットボール部



女子バスケットボール部◀

心を大切にして、これからも頑張りたいと思います。  
(三一六 小樹)

### 男・女バスケット部

バスケット部は主に月、水、木、土の週四日間体育館で練習をしています。

男子部は今年ある大会に向けて、四月から顧問をしてもらっている望月先生といつも元気で明るい橋本先生のご指導の元、二年生を中心にがんばっているようです。今年も二年生も一年生も人数が多くてとても活動的のような気がします。だからぜひ勝ち進んでいきたいです。

女子部は今、夏休み中にある夏季大会に向けて基礎や体力づくりを中心にがんばって活動をしています。女子部の方はちょっと少ない人数ですが、二年生も一年生もみんな仲がよいのでまとまっているし、顧問の堀尾先生はとても熱心に教えてくださり、みんなもそれに応え練習しているようなので、三部目指してがんばって欲しいです。

最後になってしまいました。学校の先生方やバスケット部の家族の方には大変お世話になっていていると思います。どうぞこれからも温かく見守ってあげてください。

(三一五 相馬)

### 剣道部

歴史と伝統のある我が剣道部は現在、部員

十二名という少ない人数ですが、活動は活発で、部員の自主性を大切にしています。

我々剣道部が目標としているのは、技術の向上はもとより、剣道を通して礼節を重んじ、相手を尊重する心を持つことです。

これは、剣道を行なう者の心構えとして大切なことだという顧問の先生の教えです。

具体的な活動としては、放課後の練習と毎日の朝練習を顧問の先生の御指導のもと行っており、大会の成績は春のインターハイ予選で男子団体の都大会連続出場という実績があります。

このことは我々の誇りであり、諸先輩方が築いた伝統を継承することに大きな責任を感じると共に、日々の稽古に励まなければという気になります。

今後は先輩方が道場へ足を運ばれて、御指導をいただけることを楽しみにしております。

(三一六 小島)

### サッカー部

本校のサッカー部は、七年前のK先生の赴任によりめざましい発展を遂げた。それまでは、技術指導のできる顧問の先生がいらつしやらず、そのため目標を持った真剣な部活動が出来ず、試合にも良い結果が出せないでいた。しかし、K先生は、技術の上達する喜びと、試合に負ける悔しさを、真剣な練習と多くの練習試合をすることから教えてくださ

り、自分勝手な部員も目標を持つことで丸となりそして校舎改築中でグラウンドのない異色のサッカー部が都大会に出場するまでに成長した。そして今このサッカー部は、僕達二年生が入部してから地区予選では一度も負けた事がない。しかし、こんなサッカー部も四月にK先生が転勤され、転機をむかえている。部員も三年十人、二年三人、一年十七人、マネージャー二名と二年が極端に少ないなかで三年生が引退し部活動に参加しなくなった時が不安である。しかし、K先生の教えを絶やさない為にOBの先輩が技術コーチを快く引き受けて下さることになり今は急場をしのごことが出来た。これからは、コーチと部員と話し合い練習メニューを決め顧問の先生にはご迷惑をかけないように自主的に部を運営していこうと考えている。そして三年生にとっては高校生活最後の夏の大会で都大会に出場し勝ちたいと思う。(二一六 高崎)

## 野球部

向丘高校野球部は、現在、一年十人、二年十二人、計二十二人です。練習日は毎週月曜日と第三土曜日の新庭の練習と、小石川グラウンドでの練習です。新庭では主に、筋力トレーニングやキャッチボール、素振り等の基礎的練習を行っています。又、学校の周囲を走ったりもします。小石川グラウンドでの練習は月に五、六回と大変少ないため、バッティング

練習やノック等の実践的プレーが中心です。小石川グラウンドでは、皆しっかりと声を出して練習に励んでいます。

前回の春季大会では、一回戦、朝鮮高級学校と試合をしました。結果は18対5のスコールド試合で勝ちました。そして二回戦、帝京高校と当たり、0対15でコールド負けしてしまいました。しかし、この負けをバネに、夏、秋の大会に向けて、より一層練習に気を入れて行きます。皆が頑張った分だけ試合に結果として出るものなので、頑張って行きたいです。(二一五 加世)



サッカー部▶

## 吹奏楽部

私たち吹奏楽部は「楽しむ」ということを目標に活動をしています。一見簡単そうに見えるこの目標ですが、実は非常に難しいのです。楽しみというものは、つらいことも経験しなければ生まれてこないわけで、そのつらさを克服していくからこそ本当の意味で楽しい、ということができるのです。クラブの一体化が最も重要となるこの部活ですが、部員

の一人一人がこの目標を第一と思っているからこそ、一つ一つのステージに関してもベストを尽くすことが可能となります。そしてそこでたとえ何かの壁にぶつかったとしても、お互いに励まし合い助け合えるわけです。そういうわけで、向丘高校吹奏楽部の団結力と仲の良さは、他のどの部活にも負けないという自信があります。特に仲の良さについては、

学年を越えた交流も深く、本当に自慢ができます。演奏に関しては最初は未熟ではありますが、各自つねに努力をするので、どんどん成長していきます。そういう部活なのです。(二一五 黒澤)

## 物理部

向丘高校物理部は機材の充実により、熱心な部員が毎日の様に活動しています。

文化部の中では多人数で、インターネットを活用して活動しています。その他にも、向陵祭ではプラネタリウムをしたりと、多方面に活動の手を延ばしています。

最近では、向丘高校のホームページの訪問者が三万人を超え、記念ページの設置、また新しいページの作成も始まりました。

単にインターネットサーフィンをするだけではなく、授業で使ったコースをもう一度やってみたり、身近かな所からパソコンに慣れるように、日々精進しています。またページ上での伝言版やチャットルームなどで色々

▼吹奏楽部



▲茶道部

な方々と交流を深めています。

普段は一人一人が個別に活動していますが、物理部以外の生徒が来て、コンピュータを使っていて、操作がわからない時にも、物理部員が気さくに教えています。

(二一六 鹿志村)

放送部

みなさんこんにちは。お昼の放送で同じみの放送部です。今日は放送部について紹介したいと思います。

放送部の仕事といえばお昼の放送“ですがこれだけではありません。朝会、各行事での放送機具の設置・操作、その行事によっては司会進行するなど様々な仕事があります。機械を扱う仕事が多いですが、だからといって機械に詳しい人でなければ、という事はありません。操作の説明を聞いてみると、私達が普段使っているものと同じ使い方だったり、見掛けよりも案外簡単に操作できたり、とよくある話です。

お昼の放送“も音楽ランキングやリクエスト特集など音楽にかこまれている仕事なので楽しくできると思います。

今年には各機械も新しくなりお昼の放送もラジオ感覚で“というテーマもでき、気合い十分です。みなさんも放送部で活動してみたいかがでしょうか。(二一三 中村)

写真部

写真部の活動は、写真の撮影、現像、引き伸ばし、パネル作り、展示、鑑賞です。新校舎になり、B棟三階に立派な暗室ができたものの、残念ながら、現在は部員が少なく、撮影会や合宿は今のところ行われていません。テーマを決めて、撮影会をしたいと考えています。今年は生徒総会や、体育祭を撮影しました。去年はできませんでした。学校生活をテーマに文化祭での展示をしたいと思っています。一度クラブがとぎれてしまったので、今は誰もが初心者なので手こずっています。

部員が少ないため、暗室が自由に使えるところはメリットです。写真は、写すのは簡単なのですが、良い写真を撮るのには、いろいろと技術もあつて難しいです。文化祭の後には、コンクールなどにも挑戦してみたいと考えています。(二一二 岸)

演劇部

こんにちは。突然ですが私の疑問というか悩みというか…とにかく聞いてください。

どうして「演劇部」は人気が無いのでしょうか？私は演劇部と付き合ってから六年目。そして六年目の今年で付き合いは終わります。いろんなことがあつて楽しかったです。自分達で台本を見つけ選び、演出し、大道具もつくったりして公演日までがんばりました。準備期



間中何度も行きづまったりもしました。でも、みんなの一人一人のヤル気が「成功」への道しるべだったのでしょうか。

いろんな部活にいいところがあるように、演劇部にもいいところがたくさんあります。たくさんの人に「いいところ」を「味わってもらいたいな」と思うのは私のわがままなのでしょうか？ どうですか？

最後になりますが、恐いお兄さん・お姉さん。向日葵娘。多忙なおじさん。さわやか青年。三年間いろいろありがとう。病弱な社会科学の先生。数学の先生お元気で。百周年記念にまた会いましょう。(三一 阿曾)

## 茶道部

日本に茶と抹茶法を伝えたのは、明庵栄西という僧でした。彼は禅を広めるのと同時に喫茶の習慣を伝えこれが茶道へとつながったのです。抹茶法とは、茶碗の中に粉末の茶を入れ湯を注ぎ茶筌でたてるもので今日の濃茶に似た形です。

我が校の茶道部がいつから行なわれていたかはわかりませんが、宮嶋寿仙先生は昭和二四年頃から我が校で茶道を教えていらつしやいます。流儀は大日本茶道学会というところで、これは正式な流儀名ではないようですがほかに呼びよがないのでこう呼んでいるようです。

現在、茶道部の部員数は十三人それでも少

し前までは一人だったんです。部員数に波があるようで、たった一人だった時はヒヤヒヤしましたが茶道に興味を持ってくれた人が入部してくれたので逆に和室が狭いくらい。先生も生徒が多い方がやりがいがあるのか張りきつていらつしやいます。(二二 清水)

## 地球・環境研究会

母なる大地、つまり地球はとても大きくて包容力のある存在だった。しかし、現代文明は、地球が過酷な宇宙に浮かぶ一しずくのオアシスにすぎないことを我々に思い知らせている。文明の担い手が科学技術ならば、地球を救うのも科学だろう。そのためにはまず、科学の目を地球に向けた向丘生を育てたいと考えて立ち上げたクラブがこれである。

活動としては天体観望から始めている。旧校舎にあった天体観測ドームも消え、伝統ある物理部もパソコン・オタクが占めている。マウスでクリックすれば、NASAによる天体の最新映像が見られるが、夜風に吹かれて望遠鏡をのぞく意味は計り知れず大きい。地球の動き(自転)や空気のゆらぎ、邪魔な雲や町の光等々、まさに地球の環境から大宇宙をのぞくことになるのである。

その他、地域に注目して地震被害想定や大気汚染の調査を試みていきたいと思つている。その活動のために野山に出かける一方、自然を観る道具としてパソコンを駆使する

「自然オタク」をめざしたいと思う。

現在のところ、会員は六名ほどであるが、物理部や生物部の活動と合わせて自然に親しむ機会を多くもっている。向丘高の科学系文化部復興の核として発展することだろう。(地学 南島)

## ガーデニング部

新校舎落成とともに産声をあげたガーデニング部です。しかし新校舎にはガーデニングを楽しむ土地は、いつさい「無」です。土地が無い為に思いついたのがプランターガーデニングです。プランター栽培ですから沢山育てることは出来ません。生徒の希望により手始めに無農薬野菜(キユリ、ナス、トマトかぼちゃ等)ハーブ類を育てています。次に草花(ペチニア、青、赤のサルビア、ナデシコ等)が玄関先を飾っています。そして秋には、黄金色の稲穂が垂れて都会のプランター稲栽培にびっくりの予定です。

ガーデニングは、目、耳、鼻、口、肌等、そして心も含めて人間の全身への良い影響が云われています。

かけ出し始めたガーデニング部は、模索しながら活動を活発にしていく予定です。これからも無農薬野菜の栽培と収穫、春夏秋冬の四季を通しての草花が校舎内外に咲きほころび多くの方々が楽しむことが出来たらどんなにすばらしい事かと思えます。(養護 山本)

▼クロスカントリー（多摩湖畔にて）



▲体育祭

## 体育祭

生徒会事業の一環として実施している伝統ある体育祭は、校舎新築工事等の影響を受けて92・93年度は江東区夢の島総合グラウンドを使用し、94年度から文京区六義園運動場にて開催している。

近年は、時代の流れと共に消えゆく競技もあり競技種目の選定に苦慮しているが、個人競技よりも学年毎に特色有る団体競技を主とした種目を取り入れている。なかでも大きな盛り上がりを見せているのが「学年別クラス対抗全員リレー」である。クラスの名誉と栄光のために生徒一人ひとりの想いをバトンに託して全力で必死に走る姿は、単なる競争ではなく、生徒相互の団結力と若さ溢れるエネルギーの爆発を感じさせ、見ている者をも引き付ける素晴らしい競技となっている。

また、公開演技のチアリーダーも体育祭に華を添えている。

今後とも良き伝統を引き継いで二十一世紀を見据えた体育祭の在り方を検討し、特色有る向丘高校の体育祭の確立を目指したい。

（生徒部 望月）

## クロスカントリー

本校のクロスカントリー大会は、体育科主催の学校行事として授業の中に位置づけ、毎年十一月の下旬に多摩湖畔のサイクリング

ロードを利用して実施してきた。

男子八・四km・女子六・八kmを走り、往路は急な登りで強靱な脚力を要し、復路は下りを利用したスピード感溢れるコースになっている。毎年記録の更新がなされ、ゴール前の100mのデットヒートは迫力がある。運営に際しては、教職員の指導の下、見学生徒が各係を分担して協力している。

今後の課題としては、他校との開催場所の競合により実施日程を予定より大幅に変更せざるをえない状況にあり、開催場所の変更を検討している。

（体育科 堀尾）

## 1998年度体育祭プログラム

- 1, 開会式
- 2, 準備体操
- 3, 100m走（選抜）
- 4, 騎馬戦（2, 3年女子）
- 5, 全員リレー（1年全）
- 6, スピード綱引き（2, 3年男子）
- 7, 部対抗リレー
- 8, 色別対抗綱引き（選抜）

### 《昼食》

- 9, チアリーダー応援（有志）
- 10, ムカデ競争（1年女子）
- 11, 全員リレー（3年全）
- 12, 二人三脚リレー（1年男子）
- 13, 全員リレー（2年全）
- 14, スピード綱引き・決勝（選抜）
- 15, 四人五脚リレー（選抜）
- 16, 色別対抗リレー（選抜）
- 17, 閉会式

1997年度文化祭プログラム

テーマ 1年「お祭り」 2年「夏」 3年「下町」

クラス	企画名	クラブ
1年1組	喫茶店	演奏部 演奏会
2年1組	お祭り	ギター部 演奏会
3年1組	Dreams	軽音楽部 ライブ
4年1組	フィッシュ	放送部 サテライトスタジオ
5年1組	キティ	演劇部 演劇「ナツヤスミ詔辞Repeat!」
2年1組	緑日	物理部 ホームページ作品展
2年2組	喫茶店	物理部 フラネタリウム
3年1組	お祭り	茶道部 お茶会
4年1組	お祭り	読書クラブ 展示「電車」を読む
5年1組	お祭り	有志
6年1組	お祭り	SUNNY DAY ライブ
3年1組	昔の遊び	Cheer girls チアガール
2年1組	お祭り	H. HIP HOP DANCE in fall
3年2組	お祭り	PTA PTA
4年1組	お祭り	教員 演劇
5年1組	お祭り	
6年1組	お祭り	
7年1組	お祭り	



▲文化祭（緑日）

文化祭

—— 見せる文化祭 ——

今年で四十九回を数える向陵祭も、今回は新校舎で行うということで気合いが入っています。

僕は昨年、行事委員長を務めました。今までの向陵祭は生徒達が楽しむ「見せない文化祭」だと思いき、昨年は来た人も楽しめる「見せる文化祭」にしよう、多くの新しい企画を取り入れ、色々なものに挑戦しました。特に力を入れたのは「参加団体の企画の充実」と「学年テーマ」でした。企画の充実に関しては参加団体が使えるお金を増やしたりと、できる限りのことをしました。そして、「学年テーマ」は学年のまとまりを見せるため、テーマにあった企画や装飾をすることにしました。昨年は一応、それらしい企画や装飾でしたが、しっかりとしたもの定着させるには時間がかかりそうです。

この他にも参加団体を表彰したり、展示の企画をなるべく人の目に付く場所にするなど様々な工夫をしましたが、どれもこれも今一つという感じでした。しかし、一つだけよかった企画があり、それは「トトロ」のマスケットです。一昨年から導入されたマスケット人形作りは二年目ということで完成度も高く、昨年の文化祭のシンボルのようだったので、とても好評でしたが、この成功の陰には大変な苦労がありました。夏休みも惜しんで学校

に来て作業をし、完成したのは九月の中旬で、製作期間は二ヶ月間という長い期間を経てできた力作なのです。今、この「トトロ」は昨年作った「ドラえもん」と一緒に生徒会室にあります。この製作に携わった人達は今年でも「トトロ」を自分の子供のようにならに思っています。

このように様々なことをしてきても、生徒の協力なしにはできませんでした。最初は実感がわかないせいも、あまり協力的ではありませんでしたが、文化祭が近づくにつれて協力してくれるようになり、学校を文化祭一色にしました。当日は個々が心の中にしてしまっていたものを出し、それがあふれかえって全体の雰囲気を作り出し、生徒も来た人も皆、この向丘独特の雰囲気に浸っているようでした。これが向丘の「やるときはやる」という雰囲気なんだなあと思いました。ある生徒は、この雰囲気に浸りたいと思いき、帰らない人もいました。

これが僕達がやった文化祭でしたが、目標であった「見せる文化祭」には少し遠かったように思えます。しかし、静かで穏やかな校風からすると、一人一人が満足してきているように思えます。

そのためにも、そのときの向丘生の特徴を生かし、向丘らしい文化祭をやっているように思っています。（生徒会役員 小島）

## 1997年度の修学旅行行程

11/11(火) 1日目	羽田—那覇—ひめゆりの塔・資料館—宿舎 (体験証言を聞く)
11/12(水)	宿舎—クラス別3コースに展開—宿舎 2・3組=ガラビ塚……平和祈念公園……昼食……(ガラス体験学習)……玉泉洞 5・6組=糸数塚……平和祈念公園……昼食……(ガラス体験学習)……玉泉洞 1・4組=玉泉洞……平和祈念公園……昼食……チビチリ塚……(ガラス体験学習)
11/13(木) 3日目	宿舎—日中タクシーで班別自主行動—宿舎 (例) 東南植物楽園、琉球村、伊江島、いんぶビーチ、ネオパラダイス等
11/14(金) 4日目	宿舎—首里城—国際大通—那覇—羽田 (班別自由行動)



▲沖縄修学旅行(首里城にて)

### 修学旅行

気心の知れた仲間たちと学校を離れ寝食を共にする修学旅行は、今も昔も高校生活の最大イベントだ。二百名を越す大集団で三泊四日を旅するため、生徒諸君の興奮ぶりには目を見張るものがあるが、引率にあたる教職員の消耗もまたすさまじい。出発前日など同僚諸子より「いよいよだね、フフフ。」「大変だよネ、フツ」と激励をいただくが、廊下を見ると生徒が本当に嬉しそうに歩いている。私と彼らとの心持ちの違いにタメ息の一つも出る。しかし彼らの笑顔こそが、実は修学旅行に携わる私たちの最大の喜びである。生徒の多様化・社会の変化に伴い、修学旅行の見直しを求める声が少なくない。けれども、千年の古都や南国の砂浜をはじめばかりの笑顔で歩む生徒の姿を思い、また平和公園やガマを訪れて講話に耳を傾ける真摯な表情が思い出されるとき、修学旅行には我々や生徒諸君の取り組み次第でより有意義なものにしようる可能性があるので信じられてくるのだ。

航空機利用が解禁となつて以来、本校の旅行先も近畿・中国地方から九州へ足をのぼすこととなつた。初めての機内マナー等の指導は、新幹線利用時とはまた別の困難があつたとのこと。航空機を利用し始めて六年になるが、離陸時の嘆息や着陸時の歓声は今に至るも続いている。またスチュワーデスに何かと

甘える姿も変わらない。本校生徒の素直さと明るさ、人なつこさの表れであろう。

過去三年間は沖縄を訪れている。汚染が進んでいるとはいえず、沖縄の海はあくまで青く澄み渡っている。十一月とはいえ三十度近い気温のもと、この海を目の前にして誰が泳がずにいられよう。しかし東京都の指導により遊泳は出来ない! 生徒諸君はこの指導をよく守った。が、偶然シャツを脱いだ所たまたま浅瀬に落ち思いがけず波に浮かんでしまった男子生徒も意外な事にいた。私たちに現場を目撃された彼らは何故かわわててシャツをつかみ林の中へ逃げこんでいった。その姿はあたかも米軍に追われる日本兵のようであつた、とS教諭は熱く語っている。

生徒諸君の姿を私たちは忘れない。知花昌一さんのチビチリガマのガイドに涙する女子。東南植物楽園の上空を飛ぶ戦闘機の轟音に呆然とする男子。山盛りバーベキューをまたたく間に平らげる班があり、夜のビーチで恋を語る二人がいる。ホテルのペランダに身を躍らせ、廊下を疾走し部屋からも失踪する生徒を追いかけていく私たち。修学旅行ならではの、そしておなじみの風景ではある。嬉しく楽しい風景なのに、どこか切なさを覚えるのは何故なのだろう。最後の修学旅行だからだろうか。二度と戻らぬ青春のひとつときだからか。その切なさを共有する喜びと幸福を、私はみんなからもらつたのだ。(佐藤信)

▼合唱祭（板橋区立文化会館）



▲1988年ラグビー部夏季合宿（菅平にて）

## 合宿

グラウンド等に恵まれない本校の運動部にとって、夏季合宿の意味合いは非常に大きい。部員たちは年間最大行事の一つとして、合宿をとっても楽しみに（苦しみに？）している。

又、吹奏楽部や物理部（天体観測の為、冬期に実施等）、文化部でも盛んに行われている。技能・体力向上だけでなく、「同じ釜の飯を食う」生活による連帯意識の涵養や、接触の機会が少ないOBとの交流等は、高校生にとって価値ある経験。更に、都会育ちの生徒にとつては、自然に囲まれた生活も新鮮だ。

合宿地としては新潟県（津南・越後湯沢）、山梨県（道志村・山中湖畔）、長野県（菅平高原・諏訪湖畔）といった自然環境に恵まれた土地柄が例年選ばれており、山岳部は蓼科山・八ヶ岳・白根山等に挑戦している。広大な自然は若い心に好影響を及ぼしてくれる。

少子化により、各部とも部員数減が悩みの種。故に合宿が成立しない部も多い。だが、生徒にとつて得るものが多いこの行事、何とか今後も続いて欲しいものである。（安野）

## 合唱祭

本校の合唱祭は、一九七二年六月に、共立講堂で産声をあげました。「全校の生徒に歌を歌わせたい、歌う喜びを知ってほしい」という音楽科の提案がそのきっかけでした。全面

的な賛同を得られないままのスタートでしたが、当時の渡辺美恵子教諭を中心に、生徒の組織「合唱コンクール委員会」が献身的に運営を行い、この新しい行事を成功に導きました。以来、運営主体が音楽科から生徒部に代わり、開催場所も北区公会堂、虎ノ門ホール、本校体育館、板橋区立文化会館と移りながら、一九九七年に幕を閉じるまで、二五年の長い間、向丘高校の歴史の一ページを飾ってまいりました。

向丘の伝統である「自主」のつとり、生徒が主体的に選曲・練習を行い、演奏にこぎつけるというスタイルは、ずっと変わらないものでした。その中で、伴奏者が見つからなかったり、練習がスムーズにいかなくなったりと、苦しいことも多かったです。その反面、毎日朝と昼休みと放課後に音楽室に通って、まったくの独学で「大地讃頌」のような難曲を弾き通した生徒が現れたり、地道に努力したクラスの生徒たちの心がいつそう深く通い合ったりすることも多く見られました。これらは、他の行事では得られない財産だったのでではないかと思えます。

残念ながら合唱祭は行事の見直しにより姿を消しましたが、渡辺・新井両先生が築いてくださった「歌う伝統」を音楽科の授業や卒業式で、「行事に熱く取り組む伝統」を文化祭や体育祭で、受け継いでいく所存であります。

（音楽科 宮和田）

## 学校説明会他

中学卒業予定者の激減と同時に、都立高校の入試選抜制度も、グループ選抜から単独選抜へと制度が変わり、各都立高校は自校の特色を出そうと必死に内部改革を進め、学校案内・学校見学会・学校説明会・中学校訪問を通して受験生・保護者にアピールしてきている。向丘高校も単独選抜制度が導入される年より本格的に中学校訪問を始めるが、この年の入学試験では定員割れを起し、七十七名の二次募集入試を実施せざるを得なかった。この数字は都立高校第一位の募集人員であったように記憶している。この二次募集の経験を糧にして、向丘が世間にアピールできること

と、これから何をすべきかを考えさせてくれたような気がする。英語・数学で実施されている習熟度別学習、現在ではあまりめづらしいことではないが、コンピュータを利用した物理の授業、家庭科の少人数制授業などきめ細かい授業をアピールしながら、年々学校内のシステムも変化していった。例えば、朝八時三十分からのSHR、自習時間の監督である。

一昨年・昨年より、学校説明会・見学会なども延べで千数百名を数えるようになり、入学試験では高倍率をあげる人気のある学校になってきている。特に今年度は、二倍以上の入試倍率となり、うれしい悲鳴を上げた。新

校舎への引越しに引き続き、入学選抜というあわただしいスケジュールの中で、対応に苦慮したが、教務部を中心とした協力体制により遺漏なく果たすことができた。

学校説明会は、今年も十月と十一月の土曜日の午後二回行なう。説明会の後、LL教室とマルチメディア教室で体験学習を予定している。また、昨年好評だった生徒による学校紹介・部活紹介も続けたかと思っている。受付や案内なども生徒が協力し、その明るい雰囲気は、中学生や保護者に快い印象を残しているようである。今後、「学校行事」としてしつかり定着させることが大切である。

近年、高校訪問を学習活動の一環として位置づける中学校がほとんどで、中学生の来訪者も増加の一途を辿っている。また、本校の新校舎落成と重なり、中学のPTAの団体の学校見学会が目立っている。教務も誠心誠意対応しているが、人手が不足しているのが現状である。中味が濃く、しかも効率の良いシステムを確立していくことが急務である。上げ潮ムードに流されることがなく、教職員一丸となって充実を図りたい。

(前教務部 川原)

## 遠足

遠足は、新緑の五月に実施してきた。

一学年は、ピクニックランドや筑波山において飯盒炊きをする。友人との親睦を深め、自然とふれあい、焦げた焼肉に舌鼓をうつ。

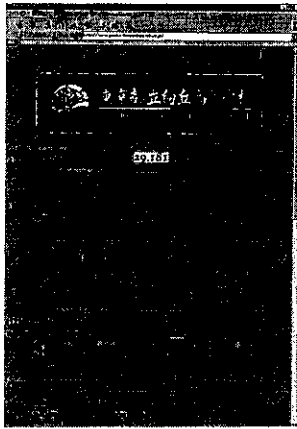
二学年は、修学旅行の予行練習を兼ねて、鎌倉周辺の班別行動を行なう。八満宮、大仏でチェックを受け、片瀬江の島に集まる。

三学年は、ディズニールランドである。クラスのを越えて、気のあった仲間と思いのアトラクションを体験し、夢の世界で一日を過ごす。尚、今年度より、一学期に行事が集中するため秋に変更となる。(宮坂)

## 映画教室

この十年間の本校の映画教室はほとんどがアメリカ映画によって占められ、残念なことに邦画は一回しかありません。いろいろな理由があると思われませんが、少しずつ娯楽性の多い映画に向く傾向にあるのも否めません。

一九八九年から以下「ワールド・アパート」・「愛がこわれるとき」・「おろしや国酔夢譚」・「リバーランズ・スルー・イット」・「ルディ」・「ショーシャンクの空に」・「評決のとき」・そして本年度の「ザ・エージェント」と時代々の感動をこれからも。(図書・AV)



◀ ホームページ

### 97年度の公開講座の内容

- 第1回 6月5日(出)  
\* インターネット…パソコンが開く世界
- 第2回 9月6日(出)  
\* ワードプロセッサソフトの利用 (その1)
- 第3回 10月18日(出)  
\* ワードプロセッサソフトの利用 (その2)
- 第4回 11月29日(出)  
\* 表計算ソフトの利用
- 第5回 12月6日(出)  
\* インターネットの活用法

## ◇ 公開講座開設とインターネット導入 ◇

### 公開講座

公開講座「パソコン初級」を開講してから、今年度で三年目になる。

公開講座とは「学校を広く地域のみなさんに解放する」という目的で、各校がそれぞれの特徴を生かして実施している講座である。

本校では「コンピュータ利用に関する先進校」としての特徴を生かし、コンピュータの操作に習熟した多くの先生方に支えられて公開講座を運営してきた。

講座の内容は、「インターネット体験」「ワープロ操作1」「ワープロ操作2」「表計算ソフト1」「表計算ソフト2」の5回で、受講者数の定員は30名である。

それぞれの回の講師は、その内容を得意とする先生が分担して務め、さらに毎回およそ10名近い先生方が助手として受講者の操作の手助けをする。初心者を対象とした講座として、ほぼマンツーマンに近いきめの細かい指導をしているところが本校の公開講座の特徴となっている。コンピュータに関する公開講座を行っている学校は他にも多数あるが、これ程充実したスタッフに支えられて、きめの細かい指導をしている学校は、そうは無いだろうと自負している。

(物理 清水)

### インターネット

平成七年度から九年度の三ケ年に、東京都の「都立高校I・C(個性化・特色化)推進事業」に、「インターネットを中心としたマルチメディア教育環境を充実させる」とした内容で応募し、これが認められてインターネットの導入が実現しました。折しも、文部省の「100校プロジェクト」がスタートした直後であったため、これに漏れた多くの高校が同様の計画で応募していたようですが、実際に認められたのは本校だけだったようです。これは、永年にわたってコンピュータの教育利用を実践し、「先進校」としての評価を築いてきた諸先輩方のご努力のおかげだと思えます。

本校のインターネットは、電話回線を利用したいわゆる「ダイヤルアップ接続」ではなく、128Kbpsの専用線で東京理科大学に常時接続しています。このため、いつでもインターネットが使える環境で、授業での利用はもちろん、進路の情報を調べたり、文化祭の研究発表の資料を探したり、(あるいは単に遊びにきたり)する生徒のために、マルチメディア教室を放課後も開放し、生徒が自由に使えるようにしています。(物理 清水)

## ◇ 図書館 ◇

要望書を作成してから七年め、一九九八年に新図書館は、ようやく完成しました。旧校舎からプレハブの仮図書館、そして新図書館への移転は困難をきわめました。生徒達、教職員の協力で、楽しいにぎやかな図書館活動が発揮できた七年間でした。

この間、全日制は、七から六学級へ学級減となり、定時制は、定時制統廃合の反対運動にもかかわらず、商業科が廃科となりました。九八年四月、学校職員に不規則勤務を強いるローテーション勤務が導入されてしまいました。さらに、今、都立高校の教職員が、戦後五十年、かろうじて守り抜いてきた、多数決、少数意見尊重を基盤とする「職員会議」を、教育庁「都立高校等あり方検討委員会」は、問題があるとしています。

また、九七年六月、「学校図書館法」の一部が改正され、「充て職(兼任)」の司書教諭が配置されることになりましたが、図書館には、専任の司書教諭が必要なのです。職員会議で、充分協議できたからこそ、新図書館は完成し、専任職員である学校司書がいるからこそ、生徒達は、図書館に親しみをもつことができるのです。図書館活動全般を担ってきた学校司書を専任の司書教諭に移行させることが、向丘高校五十年の図書館活動を継続し、より発展させていくことになるのです。

(学校司書 全・阿形 定・松下)

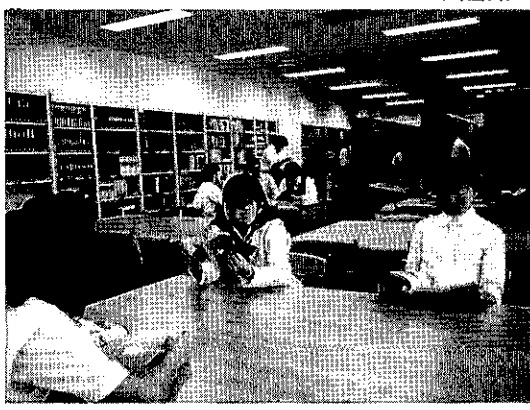
## ◇ 新標準服 ◇

校内に入り、まず目にとまるのは、ブルーグレーの明るい色調ではないでしょうか？ 都会的なファッションセンスを感じさせるブルーグレーの色調が本校標準服の一つの特徴となっています。

ブルーグレーのブレザーに女子の標準服はグレーのタウタンチエックを施した、くるまひだプリーツスカートとコーデインイトし、かわいらしさの中にも落ち着いた雰囲気の色合いになっています。一方、男子は女子のものより、幾分ダークな色合いのブレザーに、ヘリンボンのストラックスを合わせ、ベージュでさわやかな印象をあたえます。

二十年以上続き、時代遅れの感じがあつた「旧標準服」をリニューアルして向丘のイメージアップをはかりたいという目的のもとに、一九九五年、標準服検討委員会が発足しました。その後、アンケート調査等を行ないながら、向丘高校らしい標準服を検討してきました。そして本年度より、新標準服の着用が本格化しました。生徒の様子をみてみますと、当初の目的は達成できたのではないかと思います。現在、かなり着用されていますが、自分なりに着こなしており、単一のイメージをあたえられません。自分らしく着こなせる。“自分を表現できる”これが向丘高校新標準服の最大の特徴だと思えます。

▼図書館



(家庭科 諫山)

▲新標準服

